

「苗穂福祉ふれあいテン」 福祉除雪

お年寄りに優しい活動を続けるも、悩みはボランティアの高齢化。

顧問の八田力さんは地域の安全を願い、今日も青色回転灯を付けパトロール。



苗穂福祉ふれあいテン 顧問
苗穂連合町内会 副会長 兼 総務部長
八田 力さん

高齢者を見守り、 触れ合い、支え合う活動

レトロな雰囲気を漂わせるレンガ造りのサッポロビールの建物など、札幌市東区の中でも早くから開けてきた地域が、苗穂東地区です。その概要は、平成20年10月現在、人口8,938人、世帯数4,445世帯。高齢人口が1,540人でその割合は17.2%、生産年齢人口が6,213人、年少人口が1,185人で13.3%の割合となり、高齢化が目立ってきています。町内会数は15町内会あり、そのほか、老人クラブ、子供関連団体、青少年育成委員会などもあります。

高度経済成長の波に乗り、またオリンピックを控えた札幌市は昭和47年4月1日、政令都市となりました。そこで区制がとられることとなり、区制前は現在の中央区の苗穂地区と苗穂東地区で同一地域を形成していましたが、区制施行後はJRの線路を境に南側が中央区の苗穂地区、北側が東区の苗穂地区となりました。

そうした中、苗穂連合町内会は昭和47年6月30日に設立されました。「昭和49年6月25日に苗穂地区社会福祉協議会ができて、こちらの事業の一環として、「苗穂福祉ふれあいテン」という団体が、地域住民やボランティアの参加を得まして地域ぐるみで地域の高齢者に優しい、高齢者を大切にする、すなわち、触れ合い、支え合うことを活動理念に平成8年に設立されました。最初の活動として見守り、安否確認、具体的には新聞は溜まっていないだろうか、室内の電燈はずっと灯ったままになっていないかどうかと様子を確認し、「お元気ですか〜」と声をかけるも、民生委員ではないので正直限界はあ



苗穂東まちづくりセンター。苗穂連合町内会事務所も同居する

りましたが、できる限りのことはしてきました。やっぱりご近所同士なら、それぐらいの気遣いはできるでしょう。それに加えて除雪ボランティア事業。おじいちゃん、おばあちゃんの前には雪があると、普通ならどうれ、どうにかしてやろうじゃないかと思うものでしょう。で



すから苗穂連合町内会というよりは、主に高齢者を対象にしている苗穂福祉ふれあいテン（福祉のまち推進センター）が、福祉除雪を行っていると理解していただく方が正しいかもしれません」と話すのは、苗穂福祉ふれあいテン顧問で、苗穂連合町内会副会長及び総務部長など、何役も引き受けながら、苗穂地区を心底愛し、苗穂という地域を安心して暮らせる街にしようと様々な活動を行っている八田力さん。

この福祉除雪も最初の頃は高齢者に大変喜ばれボランティアスタッフも張り切って出動していましたが、年を重ねるに従い多忙などを理由にスタッフを確保する難しさが表面化してきました。さらに「スタッフが高齢化してきて、高齢者が高齢者を見ているような（笑）そんな感じにもなってきました。それでも女性が頑張ってくれているので、頼もしい限りです。原則10cm以上雪が降り積もれば、朝1回だけの除雪でOKという決まりですが、それもどうかという意見も多く、状況に応じて出動するようにしています」と八田さん。

福祉除雪は玄関前をきれいにし、十分人が通行できるようにすることが目的で、大掛かりなことまではしていません。

また利用者負担が始まったことで「どうせお金を払うのなら、どこか企業に頼んでも同じこと」と高齢者が割り切って発注し、安否確認が置き去りにされるケースも懸念されています。やはり、単に除雪だけを済ませればよいというものではなく、人のぬくもりが感じられる活動が、必ず必要になってくるはずですよ。

誰もが安心して暮らせる、わがまち、苗穂のために奮闘中

ところで連合町内会がある東区自体でも防犯、防火、防災、交通安全に関わる取り組みを行っていますが、自らの手で町の安全をと八田さんは車に青色回転灯を付けて自主的にパトロールに出ています。もちろん誰もが勝手にこの青色回転灯を付けられるものでもなく、北海道警察のお墨付き。何かと犯罪が多く、特に子供が狙われる昨今。安心、安全な街づくりのため、八田さんは、労をいとわず今日も地域の見回りを欠かしません。

「地域安全推進委員もやっています。私は自分たちの住む街が良くなり、そこに住む子供からお高齢者まで、少しでも安心して暮らせるようになるなら、まだまだ何でもしていきますよ」と瞳を輝かせました。



東光小学校の集団下校訓練の様子